

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学		理学療法学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	大久保 智生
授業の概要				
心理学の各領域について概説し、心理学の基礎的知識を習得する。前半(第2回~第8回)は、心理学の基礎について概説し、後半(第9回~第13回)は、身近な心に関する問題からわかりやすく解説していく予定である。				
授業終了時の到達目標				
心理学の基礎に触れることを通じて、人間理解の方法を深める。また、心に関する様々な問題に対して、多角的な視点からの思考を可能にする。				
時間外に必要な学修				
前回配布の資料を読み直すこと。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	心理学を学ぶことの意味 心理学の各領域の研究紹介		
2	心理学とは	知覚心理学、学習心理学、発達心理学、性格心理学、自己心理学、家族心理学、社会心理学の説明		
3	記憶	知覚すること、図と地、錯視、知覚の主観性 物理的環境と心理的環境		
4	知覚	記憶のメカニズム、記憶の変容、想起時につくられる記憶、自伝的記憶、偽の記憶		
5	心理測定	心理測定とは 心理測定の種類		
6	犯罪	犯罪心理学とは、プロファイリングとは 犯罪別の心理学		
7	性格	性格を捉える、性格の形成と変容に関する理論 性格の形成要因		
8	学習	学習の重要性、新たな行動様式の学習メカニズム やる気と無気力		
9	動機づけ	生理的動機づけ、社会的動機づけ 社会的動機：達成動機づけ、内発的動機づけなど		
10	認知、目撃証言	犯罪目撃証言の信頼性について		
11	いじめ、ハラスメント	いじめの定義と類型、いじめの集団力学 ハラスメントとは、ハラスメントの35種類		
12	学力低下、虐待	学力低下問題における指摘、学校問題と非学校問題 虐待の種類、虐待経験がもたらすもの		
13	対人関係、対人認知	対人認知について コミュニケーションと対人行動		
14	適応	適応と不適応		
15	発達	発達とは、発達段階と発達課題 発達移行期、文化と発達期待		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・実践をふりかえるための教育心理学 (ナカニシヤ出版)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報科学		理学療法学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	井内 健二
授業の概要				
「情報」の意味および価値を理解するとともに、一般情報のデジタル化、さらにデジタル化された情報をIT (Information Technology) を使って有効な形態に加工し活用する技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
業務上のレポート作成、データ集計資料作成、Web上での情報検索、プレゼンテーション資料作成など情報活用技術全般の基礎を習得する。				
時間外に必要な学修				
前回配布の資料を読み直すこと。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	授業内容の紹介、パソコン起動、フォルダ作成、文章入力 ファイル保存、印刷、PCのシャットダウン		
2	フォルダ作成と圧縮ファイルの解凍 タイピング練習ソフトでタッチタイ ピング練習	フォルダ作成、ミカタイプの圧縮ファイルの解凍法 ミカタイプの使い方、ミカタイプでタイピング練習		
3	社内文書の作成	「社内研修のお知らせ」の作成		
4	社内文書の作成2	「社内研修のお知らせ」の作成(続き)		
5	社内文書の作成3	「資産運用セミナー開催のご案内」の作成		
6	インフォーマルな文書の作成	「同期親睦会のご案内」の作成		
7	Excelデータ入力 「スケジュール表」作成	Excelの画面の説明 スケジュール表を計算式を利用して作成		
8	「個別売上表」(Excel)作成	「個別売上表」(Excel)作成		
9	Excelでグラフ作成とワードの 差し込み印刷	Excelでグラフ作成 ワードの差し込み印刷		
10	プレゼンテーション	プレゼンテーションの仕方 色の話、簡単なスライド作成		
11	Power Pointについて(基本操作)	「プレゼンテーションテクニック」の作成		
12	Wordでレポート作成の学習	ケーススタディの作成練習 サンプルファイルのダウンロード		
13	Power Pointを使って プレゼンテーションの作成	「プレゼンテーションテクニック」の作成(続き)		
14	WordファイルからPower Pointフ ァイルへの連携法の学習	WordファイルからPower Pointファイルへの連携法の学習		
15	Wordのレポート作成に便利な機能の 学習	クイックパーツの登録、Snipping Toolの使い方 スクリーンショットの使い方		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・配布資料		課題・レポート	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生化学		理学療法学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	宇山 徹
授業の概要				
生物は絶えず何かしらの反応を生体内で行っており、そこには多様な分子が関与している。生化学の授業では、生体内での生命現象を分子レベル、つまりタンパク質や遺伝子がどの様に制御されているのかを学ぶ事を目的とする。また、糖質、脂質やビタミンなどの分子についても理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
生化学の授業の内容に沿った試験を行うことで、個人の生化学の授業の理解度を高める。				
時間外に必要な学修				
前回配布の資料を読み直すこと。				
回	テーマ	内容		
1	細胞の構造	細胞の基本骨格である細胞膜や核などの構造について学ぶ		
2	細胞骨格	細胞の構造を維持している細胞内タンパク質などについて学ぶ		
3	細胞の増殖、死およびアミノ酸の性質	細胞の増殖や死がどのように制御されているかを学ぶ また、タンパク質を構成しているアミノ酸についても学ぶ		
4	たんぱく質の構造、核酸、糖類について	タンパク質の基本構造、DNAを構成している核酸、グルコースなどに代表される糖質について学ぶ		
5	核酸、糖質、脂質について	核酸、糖質、脂質の構造や機能などについて学ぶ		
6	脂質、酵素、ビタミンについて	脂質やビタミンについて学ぶ また、生体内での反応を触媒する酵素について学ぶ		
7	酵素、ビタミン、ホルモンについて	酵素、ビタミン、内分泌に関わるホルモンについて学ぶ		
8	ホルモン、輸送たんぱく質、受容体について	ホルモン、物質の輸送に関わる輸送タンパク質、細胞外からの刺激を細胞内へと伝達する受容体などについて学ぶ		
9	受容体たんぱく質、防御たんぱく質(免疫)について	受容体タンパク質、免疫や生体防御に関わる防御タンパク質について学ぶ		
10	防御たんぱく質、構造たんぱく質について	防御タンパク質、細胞-細胞間を構成する細胞外マトリックスなどに存在する構造タンパク質について学ぶ		
11	遺伝子の構造、DNAの複製	遺伝子やDNAの意味、細胞分裂時にDNAが複製される機構について学ぶ		
12	DNAの複製、染色体、細胞分裂について	DNAの複製、染色体の構造と細胞分裂との関係などについて学ぶ		
13	転写、翻訳、細胞分裂について	遺伝子からRNAが転写される機構について学ぶ		
14	たんぱく質への翻訳	RNAからタンパク質がどのように翻訳されるかについて学ぶ		
15	今までの講義の演習問題	今まで行ってきた講義内容に関連する選択問題や記述問題を実施する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
はじめの一歩イラスト生化学・分子生物学(羊土社)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間工学		理学療法学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	田中 裕介
授業の概要				
立位、立ち上がり動作の運動学的分析方法を身につける。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトの安定性に関わる因子を挙げることができる</li> <li>・安静立位姿勢、立ち上がり動作について見るべきポイントを列挙、観察できる。 また、姿勢を文章化することが出来る。</li> <li>・正常歩行周期を述べる事が出来る。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 病院勤務経験を活かし、姿勢や動作分析をイメージしやすく授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
履修した解剖学(骨関節系)と運動学を復習する。				
回	テーマ	内容		
1	人間工学の概要説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常における人間工学の考え方の紹介</li> <li>・臥位から立ち上がりまでの用語説明</li> </ul>		
2	力学①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つり合いの原理(モーメントについての理解)</li> </ul>		
3	力学②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベクトルの合成と分解</li> <li>・傾斜台での荷重量計算</li> </ul>		
4	立位姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本姿勢における重心の位置</li> <li>・立位アライメントの確認</li> </ul>		
5	立位姿勢の制御①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重心と支持基底面との関係性</li> </ul>		
6	立位姿勢の制御②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立位時の足関節における床反力と関節モーメントとの関係性</li> </ul>		
7	立位姿勢の制御③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立位時の膝関節における床反力と関節モーメントとの関係性</li> </ul>		
8	立位姿勢の制御④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立位時の股関節における床反力と関節モーメントとの関係性</li> </ul>		
9	立位姿勢の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立位姿勢分析方法のポイント説明</li> <li>・立位分析(文章化)</li> </ul>		
10	立ち上がり動作①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち上がり動作での重心と支持基底面との関係</li> </ul>		
11	立ち上がり動作②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち上がり動作のシーケンス</li> </ul>		
12	立ち上がり動作③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち上がり動作の筋活動</li> </ul>		
13	立ち上がり動作評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち上がり動作分析のポイント説明</li> <li>・立ち上がり動作分析(文章化)</li> </ul>		
14	歩行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正常な歩行周期</li> </ul>		
15	授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床でトランスファーなどでの授業内容活用方法紹介</li> <li>・授業全体の振り返り</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎運動学(医歯薬出版)</li> <li>基礎バイオメカニクス(医歯薬出版)</li> </ul>		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理学		理学療法学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
国家試験問題が読解できるレベルまでの物理学基礎を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
国家試験が解ける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
基礎物理程度の予習。				
回	テーマ	内容		
1	物理学概要	数字になれる、簡単な計算ができる		
2	力学の基本(1)	速度、等速直線運動、加速度、等加速度直線運動、落下運動など		
3	力学の基本(2)	速度、等速直線運動、加速度、等加速度直線運動、落下運動など		
4	運動と力との関係(1)	力、運動方程式、力のつり合い、慣性の法則、作用反作用の法則など		
5	運動と力との関係(2)	力、運動方程式、力のつり合い、慣性の法則、作用反作用の法則など		
6	圧力のはたらき(1)	圧力、気圧、水圧、浮力など		
7	圧力のはたらき(2)	圧力、気圧、水圧、浮力など		
8	モーメント(1)	モーメント、トルク、力のモーメントのつり合い、重心、ポディーマカニクスなど		
9	モーメント(2)	モーメント、トルク、力のモーメントのつり合い、重心、ポディーマカニクスなど		
10	エネルギーについて(1)	仕事、仕事率、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存の法則など		
11	エネルギーについて(2)	仕事、仕事率、運動エネルギー、位置エネルギー、エネルギー保存の法則など		
12	熱エネルギー(1)	熱運動、熱量保存の法則、比熱、熱伝導率など		
13	熱エネルギー(2)	熱運動、熱量保存の法則、比熱、熱伝導率など		
14	波の性質について(1)	振幅、波長、振動数、横波、縦波、反射、屈折、干渉など		
15	波の性質について(2)	振幅、波長、振動数、横波、縦波、反射、屈折、干渉など		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
まるわかり!基礎物理(南山堂)		期末試験 授業態度 課題・レポート	80% 10% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション論		理学療法学科/1年	2020/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	坂口 千恵美・横川 光代
授業の概要				
PTとして、実習に出るまで、また臨床で働くまでに必ず身に付けるべきコミュニケーションスキルや社会人としてのマナーなどを修得する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感の高い、心身ともに健康な医療人となる。</li> <li>・主体性をもって行動できる、自律した医療人になる。</li> <li>・基本的な臨床技能としてのコミュニケーション力を身に付けた医療人になる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		坂口千恵美：理学療法士として5年以上の実務経験 横川 光代：理学療法士として5年以上の実務経験		
時間外に必要な学修				
学内で挨拶や他クラスの学生へのコミュニケーションをスムーズに取れるように心がける。 社会人としてのマナーやモラルを常に心がけ日常生活を送る				
回	テーマ	内容		
1	コミュニケーションとは	・PTに必要なコミュニケーション力とは		
2	基本的な立ち居振る舞い、言葉遣い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい挨拶のルール</li> <li>・敬語の使い方</li> </ul>		
3	コミュニケーション実践編① 聞くスキル、質問のスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・傾聴のポイント、頷き、相づち</li> <li>・オープンクエスチョン、クローズドクエスチョン</li> </ul>		
4	コミュニケーション実践編② 伝えるスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Iメッセージ、YOUメッセージ</li> <li>・許可を得るための枕詞</li> </ul>		
5	コミュニケーション実践編③ 観察のスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みる力を養う為に</li> <li>・観察した事を記録・報告する</li> </ul>		
6	自己実現のための方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成のための自己管理</li> <li>・行動目標と行動目標</li> </ul>		
7	社会人の常識①	・上座、下座等社会人としての一般的なマナー		
8	社会人の常識②	・TPOに合わせた服装、言葉づかい		
9	社会人の常識③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手紙の書き方</li> <li>・電話の掛け方、受け方</li> </ul>		
10	臨床で役立つコミュニケーションスキル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療面接とはなにか</li> <li>・医療面接での対話のしかた</li> </ul>		
11	臨床で役立つコミュニケーションスキル②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手との関係を築く方法</li> <li>・質問の仕方</li> </ul>		
12	臨床で役立つコミュニケーションスキル③	・相手を会話に乗せる方法		
13	臨床で役立つコミュニケーションスキル④	・相手から話を引き出す方法(聴く技術)		
14	臨床で役立つコミュニケーションスキル⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症のかたとのコミュニケーション</li> <li>・スパーバイザーとのコミュニケーション</li> </ul>		
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験対策</li> <li>・国試過去問など</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OTのためのこれで安心 コミュニケーション実践ガイド(医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間育成学 I		理学療法学科/1年	2020/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子・横川 光代
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療人としての人間性、資質を培う。</li> <li>・問題解決のための自己学習の手続きを学ぶ。</li> <li>・文献をまとめることで、文章の書き方や表出方法を学ぶ。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献の選択、文章の理解、疑問の抽出と解決までの流れが実行できる。</li> <li>・テーマに基づいて文献を集め、整理することができる。</li> <li>・適切な語句を用いて文章表現ができる。</li> <li>・適切な言葉を用いて発表ができる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		宮内 貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 横川 光代：理学療法士として5年以上の実務経験 問題解決のための自己学習プロセスを教示し、情報共有についても言及する。		
時間外に必要な学修				
評価学、整形外科の教科書や授業資料を再読し復習しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 構成的グループエンカウンター	科目のねらい、到達目標について		
2	グループ発表 1	1, 2年合同グループでの課題発表		
3	グループ発表 2	1, 2年合同グループでの課題発表		
4	グループ発表 3	1, 2年合同グループでの課題発表		
5	グループ発表 4	1, 2年合同グループでの課題発表		
6	グループ発表 5	1, 2年合同グループでの課題発表		
7	グループ発表 6	1, 2年合同グループでの課題発表		
8	グループ発表 7	1, 2年合同グループでの課題発表		
9	グループ発表 8	1, 2年合同グループでの課題発表		
10	グループ発表 9	1, 2年合同グループでの課題発表		
11	グループ発表 10	1, 2年合同グループでの課題発表		
12	グループ発表 11	1, 2年合同グループでの課題発表		
13	グループ発表 12	1, 2年合同グループでの課題発表		
14	グループ発表 13	1, 2年合同グループでの課題発表		
15	グループ発表 14	1, 2年合同グループでの課題発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
各種書籍、資料等		総合判定	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖運動学 I		理学療法学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中嶋 志保
授業の概要				
四肢及び体幹の機能解剖について理解し、運動療法や動作分析に必要な基本的事項を学習する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主要な関節について関節構成体の構造と機能を理解する。</li> <li>・ 関節運動について、作用する筋および運動を正しい用語で説明できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 正常運動理論を臨床でどのように活用するかを交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
解剖運動学Ⅱ(体表面解剖)の内容と併せて復習するとよい。				
回	テーマ	内容		
1	骨格概要①	骨格を構成する骨の名称		
2	骨格概要②	グループ学習		
3	骨の構造	骨の分類 長管骨の構造		
4	骨の連結	各関節の名称 グループ学習		
5	関節の基本構造	連結の分類 滑膜性連結の一般構造		
6	関節運動の表現	方向と位置を表す用語 グループ学習		
7	筋学総論	筋組織の種類と特徴 骨格筋の構造		
8	骨格筋	筋の作用 興奮収縮連関		
9	全身の骨格筋①	全身の骨格筋の名称		
10	全身の骨格筋②	グループ学習		
11	肩関節の構造と機能①	解剖学的関節と機能的関節		
12	肩関節の構造と機能②	腱板の機能 第2肩関節の構造と機能		
13	肩関節の構造と機能③	肩関節の病態と運動		
14	肘関節の構造と機能①	肘部管、Carrying angle 肘関節の運動と筋		
15	肘関節の構造と機能②	肘関節の病態と運動		
16	手関節の構造と機能①	手関節の構造、手根管 手関節の運動と筋		



17	手関節の構造と機能②	手のアーチ 手の変形（伸展機構障害と末梢神経障害）		
18	手関節の構造と機能③	手関節、指関節の病態と運動		
19	股関節の構造と機能①	股関節の形態と特徴 アライメントと各指標		
20	股関節の構造と機能②	股関節の運動と筋 股関節のバイオメカニクス		
21	股関節の構造と機能③	股関節の病態と運動		
22	膝関節の構造と機能①	膝蓋大腿関節の構造と機能 脛骨大腿関節の構造と機能		
23	膝関節の構造と機能②	膝関節の運動と筋 膝関節の伸展機構		
24	膝関節の構造と機能③	膝関節の病態と運動		
25	足関節の構造と機能①	足関節、足部の構成体と機能 足関節の運動と筋		
26	足関節の構造と機能②	足のアーチ 足関節の病態と運動		
27	脊柱の構造と機能	脊柱の一般的構造		
28	頸椎の構造と機能	頸椎の運動と筋		
29	胸椎および胸郭の構造と機能	胸椎、胸郭の構造と運動 呼吸運動		
30	腰椎および骨盤の構造と機能	腰椎の構造と運動 腰椎と骨盤の関係		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PT・OTのための運動学テキスト （金原出版）</li> <li>・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 （医学書院）</li> </ul>		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖運動学Ⅱ		理学療法学科/1年	2020/前期	実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	田中 裕介
授業の概要				
体表面に骨や筋の位置や走行を投影し、触察できるようになる。				
授業終了時の到達目標				
上肢・下肢・体幹の骨と関節を触察できる。 上肢・下肢・体幹の筋を触察できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 治療で活用してきた触診技術を学生がイメージしやすく授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
筋を触察する上で、起始・停止・走行・作用を頭に入れて置くことが重要である。				
回	テーマ	内容		
1	・触察のための基本技術と注意事項 ・肩甲骨(後面)の触察	・触診の基礎と技術・肩甲骨(後面)のランドマークの名称 ・肩甲骨(後面)の各ランドマークの触察実習		
2	・鎖骨の触察 ・上腕骨の触察	・鎖骨、上腕骨のランドマークの名称 ・鎖骨、上腕骨の各ランドマークの触察実習		
3	・烏口突起、上腕骨近位部の骨指標の触察	・烏口突起、三角筋粗面、大結節、小結節、結節間溝の触察		
4	・肩関節周囲筋の触察	・三角筋、僧帽筋(上部、中部、下部)、広背筋、大円筋の触察		
5	・肩回旋筋群の触察	・棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋の触察		
6	・肩甲骨の挙上・上方・下方回旋筋の触察	・大菱形筋、小菱形筋、肩甲挙筋、前鋸筋の触察		
7	・上腕骨及び肩甲骨から体幹に付着する筋の触察	・大胸筋(鎖骨部、胸骨部、腹部線維)、小胸筋、鎖骨下筋の触察		
8	・上腕部の筋群の触察	・上腕二頭筋(長頭・短頭)、上腕筋、烏口腕筋、上腕三頭筋の触察		
9	・前腕の骨指標の触察	・上腕骨上顆、上顆稜・尺骨の触察(肘頭、肘頭窩、尺骨体、尺骨茎状突起)・橈骨の触察(橈骨頭、橈骨骨幹、橈骨茎状突起、リスター結節)		
10	・手根骨と中手骨の触察	・豆状骨、三角骨、有鉤骨、舟状骨、大菱形骨、小菱形骨、有頭骨、月状骨の触察・中手骨の触察		
11	・前腕伸筋群の触察	・肘筋、長橈側手根伸筋、短橈側手根伸筋、総指伸筋、尺側手根伸筋、小指伸筋、示指伸筋の触察 ・母指の動きと主働筋 ・長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋の触察		
12	・前腕屈筋群の触察	・腕橈骨筋、円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、深指屈筋の触察		
13	・母指球筋の触察 ・小指球筋の触察	・母指対立筋、短母指外転筋、短母指屈筋、母指内転筋の触察 ・小指外転筋、小指屈筋、小指対立筋の触察 ・虫様筋、掌側・背側骨間筋の作用の理解		
14	・骨盤・下肢の骨指標の触察	・骨盤、大腿骨、下腿骨の骨指標の確認と説明		
15	・胸骨、肋骨の触察	・胸骨(胸骨柄、胸骨体、剣状突起)の触察 ・肋軟骨、肋骨の触察		

16	・ 脊柱起立筋群の触察	・ 棘筋、最長筋、腸肋筋、多裂筋の触察		
17	・ 頸部、後頭部の筋群の触察 ・ 腰部、腹部の筋群の触察	・ 頭板状筋、後頭筋群の触察・ 腰方形筋、腹直筋、内・外腹斜筋、横隔膜、肋間筋の触察		
18	・ 頭部の骨指標の触察 ・ 気管、甲状軟骨、舌骨の触察	・ 外後頭隆起、上項線、乳様突起、頬骨弓、茎状突起、下顎角、下顎枝、下顎頭、筋突起の触察・ 輪状軟骨、甲状軟骨、舌骨の触察		
19	・ 頭部、頸部筋群の触察 ・ 頸部の動脈と分泌腺の触察	・ 胸鎖乳突筋、斜角筋、咬筋、側頭筋、舌骨上・舌骨下筋群の触察 ・ 総頸動脈、側頭動脈、顔面動脈の触察 ・ 耳下腺、顎下腺、甲状腺の触察		
20	・ 骨盤の骨指標の触察 ・ 大転子の触察 ・ 骨盤の靭帯の触察	・ 上前腸骨棘、下前腸骨棘、腸骨稜、腸骨窩、上後腸骨棘坐骨結節、仙骨、尾骨、恥骨、仙腸関節の触察 ・ 大転子の触察		
21	・ 大腿前面の筋群の触察	・ 内転筋群（恥骨筋、長内転筋、大内転筋、薄筋）の触察 ・ 縫工筋、大腿筋膜張筋、腸脛靭帯、大腿四頭筋の触察		
22	・ 腸骨筋、大腰筋の触察	・ 腸骨筋、大腰筋の触察		
23	・ 大腿後面の筋群の触察・ 後膝窩部の触察・ 鷲足を構成する筋群の触察	・ 大腿二頭筋、半腱・半膜様筋、膝窩筋の触察 ・ 後膝窩部の筋群の位置関係の確認・ 鷲足の触察		
24	・ 膝関節の骨指標と靭帯の触察 ・ 足関節と足部の骨指標と靭帯の触察	・ 膝蓋骨、脛骨体、脛骨粗面、脛骨高原、関節裂隙、腓骨頭、大内転筋結節の触察、足根骨と中足骨の触察		
25	・ 下腿後面の筋群の触察	・ 腓腹筋、足底筋、ヒラメ筋、後脛骨筋、長母趾屈筋、長趾屈筋の触察		
26	・ 足底部の筋群の触察	・ 母趾外転筋、小趾外転筋、短趾屈筋		
27	まとめ	上肢		
28	まとめ	下肢		
29	まとめ	下肢		
30	まとめ	体幹		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学（医学書院） ・ プロメテウス解剖学コアアトラス （医学書院）		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖生理学 I		理学療法学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	平岡 英樹
授業の概要				
神経系(中枢神経系および末梢神経系)の構造(つくり)および機能(はたらき)について教授する。				
授業終了時の到達目標				
1年次後期の「リハビリテーション神経学」、2年次の「中枢神経系理学療法 I・II」、「神経筋疾患の理学療法」を学習するための基礎となる知識を定着させる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
授業中に提示される重要ポイントおよびキーワードの復習をすること				
回	テーマ	内 容		
1	神経系総論(1)	神経系の構造と機能の概要		
2	神経系総論(2)	神経細胞の基本的構造と機能		
3	神経系総論(3)	神経系の発生		
4	中枢神経系(1)	中枢神経系の構造と機能の概要		
5	中枢神経系(2)	大脳の機能の概要		
6	中枢神経系(3)	前頭葉の構造と機能		
7	中枢神経系(4)	頭頂葉の構造と機能		
8	中枢神経系(5)	側頭葉の構造と機能		
9	中枢神経系(6)	後頭葉の構造と機能		
10	中枢神経系(7)	高次脳機能(1)		
11	中枢神経系(8)	高次脳機能(2)		
12	中枢神経系(9)	学習と記憶		
13	中枢神経系(10)	大脳辺縁系の構造と機能		
14	中枢神経系(11)	大脳基底核の構造と機能(1)		
15	中枢神経系(12)	大脳基底核の構造と機能(2)		
16	中枢神経系(13)	間脳の構造と機能(1)		
17	中枢神経系(14)	間脳の構造と機能(2)		
18	中枢神経系(15)	脳幹の構造と機能: 中脳		
19	中枢神経系(16)	脳幹の構造と機能: 橋		
20	中枢神経系(17)	脳幹の構造と機能: 延髄		
21	中枢神経系(18)	意識、脳波と睡眠		
22	中枢神経系(19)	小脳の構造と機能(1)		
23	中枢神経系(20)	小脳の構造と機能(2)		
24	中枢神経系(21)	脊髄の構造と機能		
25	中枢神経系(22)	脊髄反射		

26	中枢神経系（23）	姿勢反射		
27	中枢神経系（24）	伝導路の構造と機能		
28	末梢神経系（1）	末梢神経系の構造と機能の概要		
29	末梢神経系（2）	脊髄神経の構造と機能		
30	末梢神経系（3）	末梢神経の構造と機能（1）		
31	末梢神経系（4）	末梢神経の構造と機能（2）		
32	末梢神経系（5）	自律神経系の構造と機能		
33	末梢神経系（6）	脳神経の構造と機能（1）		
34	末梢神経系（7）	脳神経の構造と機能（2）		
35	末梢神経系（8）	脳神経の構造と機能（3）		
36	感覚器系（1）	感覚器系の概要		
37	感覚器系（2）	皮膚感覚の受容器と伝導路		
38	感覚器系（3）	深部感覚の受容器と伝導路		
39	感覚器系（4）	関節の感覚器の構造と機能		
40	感覚器系（5）	嗅覚器の構造と機能		
41	感覚器系（6）	味覚器の構造と機能		
42	感覚器系（7）	平衡聴覚器の構造と機能（1）		
43	感覚器系（8）	平衡聴覚器の構造と機能（2）		
44	感覚器系（9）	視覚器の構造と機能（1）		
45	感覚器系（10）	視覚器の構造と機能（2）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標準理学療法・作業療法学  専門基礎分野 解剖学（医学書院）</li> <li>・ プロメテウス解剖学コアアトラス  （医学書院）</li> <li>・ 神経局在診断（文光堂）</li> </ul>		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖生理学Ⅱ		理学療法学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	中嶋 志保・宮内 貴志子
授業の概要				
内部障害に対し理学療法を行うための基礎知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>筋収縮のエネルギー源と呼吸循環機能の関連について説明できる。</li> <li>運動負荷に伴う身体の変化について説明できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		中嶋 志保：理学療法士として5年以上の実務経験 宮内貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 臨床経験をいかして理学療法との接点を交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを読み予習する。				
回	テーマ	内容		
1	解剖生理学とは	これから学ぶ内容について		
2	解剖学的位置と役割	各臓器の位置関係を理解する		
3	呼吸器系について	呼吸器系を構成する器官の構造		
4	呼吸器系について	呼吸器系を構成する器官の構造を理解する		
5	呼吸器系について	外呼吸 安静時呼吸運動(呼吸筋と補助筋) 胸郭の動き 咳嗽		
6	呼吸機能について	肺容量・ガス交換		
7	呼吸機能について	免疫防御と気道		
8	呼吸機能について	呼吸調整と酸塩基平衡 酸素乖離曲線 内呼吸		
9	消化と吸収について	消化器官の構成および構造と機能の概説 栄養素と分解		
10	消化と吸収について	消化酵素と機能、消化管機能の調整・消化酵素の分泌調節		
11	栄養の合成	臓の構造と機能		
12	栄養の合成	消化吸収と栄養の合成		
13	栄養の合成	消化吸収と栄養の合成		
14	リンパ系と免疫	小腸の栄養吸収とリンパ液		
15	リンパ系と免疫	リンパ系の構成要素を理解する		
16	まとめ	これまでの振り返り		
17	尿の生成と排泄	腎臓と泌尿器の構造と機能		
18	尿の生成と排泄	尿の生成 水分調整 血圧調整		
19	尿の生成と排泄	尿の生成 酸塩基平衡について		
20	生殖器系	生殖器系の総論		
21	生殖器系	女性生殖器		

22	生殖器系	男性生殖器		
23	内分泌系	内分泌系総論		
24	内分泌系	下垂体、甲状腺、上皮小体、膵臓、副腎、性腺、松果体、胸腺		
25	内分泌系	ホルモンの生理		
26	内分泌系	ホルモンの生理		
27	体温の調節	体温の分布 体温変動		
28	体温の調節	体熱の産生と放熱		
29	体温の調節	体温の調節と異常		
30	まとめ	16回目以降のまとめと振り返り		
31	心臓と循環	血液の循環、心臓・血管の構造		
32	血液①	血液の組成と機能①		
33	血液②	血液の組成と機能②		
34	心臓の興奮と刺激伝導系	刺激伝導系と心電図		
35	血圧	血圧とその調節		
36	微小循環と物質交換	毛細血管の構造と物質の移動		
37	臓器循環	冠循環、脳循環、門脈循環、皮膚循環、肺循環		
38	静脈還流、リンパ循環	静脈還流量の調節 リンパ管の構造と役割		
39	呼吸循環機能と筋収縮	筋収縮のエネルギー源		
40	運動に伴う全身の変化①	運動負荷と呼吸応答		
41	運動に伴う全身の変化②	運動負荷と呼吸応答		
42	運動に伴う全身の変化③	運動負荷と循環応答		
43	運動に伴う全身の変化④	運動負荷とその他の体の変化		
44	運動負荷試験	運動負荷試験と運動処方		
45	トレーニングの効果	トレーニングが呼吸・循環動態に与える影響		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学（医学書院）		期末試験 課題・レポート	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学実習		理学療法学科/1年	2020/後期	演習・実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子・横川 光代
授業の概要				
<p>人体を構成する器官は、立体的に体格を構築すると共に、体腔内に立体的に納まっている。立体的な認識を得るためには、丁寧な予習に裏付けられた知識と実習室における系統的な観察が重要であり、構造と機能の相関理解に努めることで目的は達成できる。同時に篤志献体された方々のご厚意に触れ、医療人としてあるべき姿を心に刻む。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の基本構造を学習し、筋骨格系、末梢神経系、脈管系、内臓系の構造と機能を理解する。</li> <li>・人体の立体的構造を立体視できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		宮内貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 横川 光代：理学療法士として5年以上の実務経験 問題解決のための自己学習プロセスを教示する。		
時間外に必要な学修				
教科書を授業前に確認しておくこと。				
回	テーマ	内容		
1	スケッチ学習1	上肢帯の骨と筋のスケッチ		
2	スケッチ学習2	下肢帯の骨と筋のスケッチ		
3	スケッチ学習3	スケッチ復習		
4	グループ成果発表1	骨の構造と骨改変の課題		
5	グループ成果発表2	関節面の形態と靭帯の課題		
6	グループ成果発表3	筋の構造と収縮連関の課題		
7	グループ成果発表4	神経の構造と伝導・シナプス伝達の課題		
8	グループ成果発表5	上肢の神経と血管の走行の課題		
9	グループ成果発表6	下肢の神経と血管の走行の課題		
10	グループ成果発表7	呼吸器系の課題		
11	グループ成果発表8	循環系の課題		
12	グループ成果発表9	消化器系の課題		
13	グループ成果発表10	泌尿器系の課題		
14	グループ成果発表11	内分泌系の課題		
15	解剖実習見学	筋骨格系の形と走行、神経血管系との位置関係を観察		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準理学療法学・作業療法学</li> <li>・専門基礎分野 解剖学(医学書院)</li> <li>・プロメテウス解剖学コアアトラス(医学書院)</li> </ul>		習熟度試験(2回) グループ成果発表	50% 50%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間発達学		理学療法学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
胎児期から新生児期、乳児期、学童期から青年期、老年期に至るまでの、身体的な成長・発達および精神的な発達を学び、それぞれの時期の発達の特徴を理解する。また、成長・発達に関係する因子と発達理論および発達評価法の概略を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達的一般原則、発達理論の概略を理解する。</li> <li>・発育・発達関係する因子を説明でき、発育・発達に与える影響と理論を理解する。</li> <li>・新生児期に必要な原始反射と姿勢反射を説明できる。</li> </ul>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	理学療法士として5年以上の経験 胎児期からの発達をイメージしやすいように展開する。			
時間外に必要な学修				
生涯発達に興味を持ちテキストを読み返してください。				
回	テーマ	内容		
1	人間発達学総論	人間発達とは 発達にみられる諸原則		
2	胎児期について	発達段階と課題について(総論) 胎児期の子宮環境について		
3	出産と新生児期について	出生に伴う呼吸や心臓機能の変化 胎児循環と肺呼吸		
4	乳児期の発達(0から3か月頃)	哺乳と原始反射 姿勢の変化と身体機能		
5	乳児期の発達(3から6か月頃)	乳児期の姿勢と定頸・寝返りの獲得 姿勢変化と立ち直り反応の出現		
6	乳児期の発達(7から9か月頃)	座位保持・四つ這い・腹ばいの獲得		
7	乳児期の発達(10から12か月頃)	歩行の獲得 平衡反応の充実		
8	原始反射と姿勢反射・平衡反応総論	脳の発達と原始反射・立ち直り反応・平衡反応の出現		
9	幼児期前半の発達課題	幼児期の遊びと学習 家庭内での学習		
10	幼児期の発達評価	幼児期の発達スクリーニング評価		
11	幼児期後半の発達	目と手の協調性 食事と嚥下機能(哺乳から自己摂食)		
12	学童期の発達	集団での学習と発達		
13	青年期の発達	自己同一性の獲得		
14	成人期の発達	親世代の発達と役割について		
15	老年期の発達 まとめ	総括と重要ポイント復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる人間発達(医歯薬出版)		期末試験 確認テスト	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床心理学		理学療法学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	福田 琴
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理分野の疾患の理解。</li> <li>各疾患の治療法を学ぶ。</li> <li>自分たちの職種が出来る範囲のことを知る。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理分野の疾患を理解する。</li> <li>各疾患の治療法を理解する。</li> <li>自分たちの職種で出来る各疾患の治療を学ぶと共に、自分で考える。</li> </ul>				
時間外に必要な学修				
授業前に教科書、配布資料を確認しておくこと。				
回	テーマ	内 容		
1	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史 各種心理テストの概略 など		
2	神経症 1 (不安障害)	不安障害の種類 強迫性障害とパニック障害に対する暴露療法 など		
3	神経症 2 (身体表現性障害)	転換性障害のメカニズム 心気症と心身症の違い など		
4	神経症 3 (解離性障害) 適応障害	解離性障害の防衛メカニズム 離人症性障害の症状 など		
5	人格障害 1	各クラスターに属するパーソナリティ障害 など		
6	人格障害 2	パーソナリティ障害の合併 クラスターC (回避性パーソナリティ障害など)		
7	摂食障害 統合失調症について	神経性無食欲症、過食発作 統合失調症の概念、歴史、下位分類		
8	依存症 気分障害について	依存症の種類、依存と乱用の違い 双極性障害と大うつ病の違い、認知行動療法		
9	てんかん 睡眠障害 性障害について	てんかんの原因、発作の種類、脳波の特徴 睡眠・覚醒リズム障害の概要、性障害の分類		
10	子供の精神障害とその周辺について 1	精神遅滞と知能指数の関係、学習障害の種類 注意欠陥・多動性障害の原因と症状		
11	子供の精神障害とその周辺について 2	社会問題となった子供の異常の数々を知る。 児童虐待について		
12	老化とその障害 リラクゼーションについて	アルツハイマー型認知症と血管性認知症の違い 各種リラクゼーション法の概要		
13	精神療法 力動精神療法	フロイト精神分析、家族療法、集団療法 力動精神療法の流れ、自我心理学の概要		
14	認知行動療法 支持療法	認知行動療法の概要、ベックの方法論 支持療法の歴史、心理療法的アプローチ		
15	薬物療法 セルフアセスメント	薬物の種類と副作用、脳内ホルモンの働き 臨床心理学全体の総括		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学 (医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
一般臨床医学		理学療法学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	村上 匡司
授業の概要				
医学一般について幅広く知識を深めていく学問であり、代表的な疾患の概要や症状、治療などについて習得する。				
授業終了時の到達目標				
代表的な疾患について理解を深めるとともに、基礎医学との関連性を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実務経験、臨床実践を活かし、学生へ視点を助言する。		
時間外に必要な学修				
各疾患の病態について復習をしておく。				
回	テーマ	内 容		
1	必要な基礎知識について	中止基準、バイタルサインなど		
2	カルテの記載方法について(1)	SOAP形式など		
3	カルテの記載方法について(2)	実際の記入など		
4	バイタルサインについて(1)	脈拍、血圧、血圧の測定方法など		
5	バイタルサインについて(2)	高血圧の基準値や薬物療法など		
6	バイタルサインについて(3)	心拍と脈拍、心電図測定など		
7	バイタルサインについて(4)	呼吸の異常、聴診、酸素飽和度など		
8	バイタルサインについて(5)	体温調節、発熱、意識障害、症状、評価方法など		
9	感染と感染予防について	感染経路、標準予防策など		
10	血液検査について	おもな血液成分の役割、検査数値など		
11	薬物療法について	薬物の効果と副作用など		
12	老年医学概要	高齢者ケアの基本原則、よくみられる疾患など		
13	がん患者のリハビリテーションについて(1)	診断、治療など		
14	がん患者のリハビリテーションについて(2)	リハビリテーション、緩和ケアなど		
15	在宅医療におけるリハビリテーション	エンドオブライフ・ケアなど		
16	救急救命医療について(1)	心肺蘇生法、ショック、呼吸管理、中心静脈栄養、輸血療法、救急処置、ICUの役割など		

17	救急救命医療について (2)	心肺蘇生法、ショック、呼吸管理、中心静脈栄養、輸血療法、救急処置、ICUの役割など		
18	外科総論 (1)	機械的損傷、非機械的損傷、感染性疾患、末梢血行障害、腫瘍、臓器移植など		
19	外科総論 (2)	機械的損傷、非機械的損傷、感染性疾患、末梢血行障害、腫瘍、臓器移植など		
20	脳神経外科総論 (1)	症候と病態、補助診断法、主な疾患など		
21	脳神経外科総論 (2)	症候と病態、補助診断法、主な疾患など		
22	皮膚疾患 (1)	症状、病態生理、湿疹、皮膚炎、蕁麻疹、皮膚掻痒症、皮膚感染症、動物寄生による疾患など		
23	皮膚疾患 (2)	症状、病態生理、湿疹、皮膚炎、蕁麻疹、皮膚掻痒症、皮膚感染症、内科的疾患に伴う皮膚病変など		
24	泌尿器・生殖器疾患 (1)	診断・検査法、びまん性の腎実質性疾患、尿路感染症、尿路結石症、神経因性膀胱、腎不全、生殖器感染症など		
25	泌尿器・生殖器疾患 (2)	診断・検査法、びまん性の腎実質性疾患、尿路感染症、尿路結石症、神経因性膀胱、腎不全、生殖器感染症など		
26	婦人科・産科疾患	女性器の炎症、女性器の腫瘍、正常の妊娠と分別、妊娠の異常など		
27	眼疾患 (1)	検査法、目の症候、視機能異常、視神経疾患、外傷、全身疾患と眼など		
28	眼疾患 (2)	耳疾患、鼻疾患、咽頭・喉頭の疾患、気道・食道の疾患と音声・言語障害など		
29	耳鼻咽喉科疾患 (1)	耳疾患、鼻疾患、咽頭・喉頭の疾患、気道・食道の疾患と音声・言語障害など		
30	耳鼻咽喉科疾患 (2)	耳疾患、鼻疾患、咽頭・喉頭の疾患、気道・食道の疾患と音声・言語障害など		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
PT・OT・STのための一般臨床医学 (医歯薬出版)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション整形外科学		理学療法学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	横川 光代
授業の概要				
整形外科の一般的疾患について病態と治療について必要な知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科の一般的疾患に対する病態を理解する。</li> <li>・診断方法、治療方法(手術・保存)を理解し、リハビリテーションの実施に役立てる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 手術後療法、保存療法の経験談を交えながら授業を進める。		
時間外に必要な学修				
前回の資料を確認して復習、テキストを用いて次回の予習をする。				
回	テーマ	内容		
1	運動器の生理①(骨・関節)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨の構造・分類、骨の成長と骨代謝</li> <li>・関節の構造、関節軟骨の機能</li> </ul>		
2	運動器の生理②(神経)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経の種類、シナプス伝達</li> <li>・各伝導路</li> </ul>		
3	運動器の生理③(筋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨格筋の分類</li> <li>・骨格筋の収縮、収縮の種類</li> </ul>		
4	運動器の整形外科、診療の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存療法、手術療法</li> <li>・各治療法の合併症</li> </ul>		
5	運動器の整形外科、治療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診察、症候、診断に利用される各種検査</li> </ul>		
6	骨折・脱臼①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨折・脱臼総論</li> <li>・上肢の骨折・脱臼</li> </ul>		
7	骨折・脱臼②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上肢の骨折・脱臼</li> </ul>		
8	骨折・脱臼③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下肢の骨折・脱臼</li> </ul>		
9	骨折・脱臼④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下肢の骨折・脱臼</li> <li>・脊椎・骨盤の骨折</li> </ul>		
10	変形性関節症①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病態、疫学</li> </ul>		
11	変形性関節症②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変形性膝関節症、保存、手術療法</li> </ul>		
12	変形性関節症③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変形性股関節症、保存、手術療法</li> </ul>		
13	関節リウマチ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概念・疫学・病態</li> </ul>		
14	関節リウマチ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関節症状、関節外症状、検査、診断</li> </ul>		
15	関節リウマチ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療、薬物療法</li> </ul>		
16	上肢の疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肩関節周囲炎、腱板断裂、腱鞘炎</li> </ul>		

17	下肢の疾患	・ 大腿骨頭壊死、大腿骨頭すべり症、足部変形		
18	スポーツ外傷・障害①	・ ACL損傷、PCL損傷、足関節靭帯損傷、アキレス腱断裂		
19	スポーツ外傷・障害②	・ 野球肘、テニス肘、離断性骨軟骨炎、肩峰下インピンジメント症候群		
20	骨端症	・ Perthes病、Osgood-Schlatter病、Kohler病等		
21	骨腫瘍	・ 骨腫瘍の特徴、臨床像、画像診断、合併症		
22	先天性異常症候群	・ 先天性疾患の病態、合併症、診断、治療		
23	熱傷	・ 熱傷深度、関節拘縮の治療		
24	末梢神経損傷①	・ 末梢神経損傷の分類、病態、症状 ・ 下肢の末梢神経損傷		
25	末梢神経損傷②	・ 腕神経叢損傷、胸郭出口症候群の症状、診断、治療		
26	末梢神経損傷③	・ 正中神経、橈骨神経、尺骨神経の症状、診断、治療		
27	脊椎・脊髄疾患①	・ 脊椎、脊髄の解剖（復習） ・ 各伝導路（復習）		
28	脊椎・脊髄疾患②	・ myelopathyとradiculopathyの症状の違い ・ 脊椎・脊髄疾患の種類		
29	脊髄損傷①	・ 発生要因、病態、症状、高位診断		
30	脊髄損傷②	・ 脊髄損傷と機能的予後、リハビリテーション		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 (メディックメディア)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション神経学		理学療法学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	平岡 英樹
授業の概要				
リハビリテーションの対象となる脳血管障害、神経筋難病、末梢神経障害等の発症機序や治療法および理学療法プログラムを教授する。				
授業終了時の到達目標				
各疾患の発症機序、疫学、診断法と治療法を理解する。 病態に応じた適切な理学療法プログラムを立案するための基礎となる知識を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期・神経難病病院での経験を活かし、臨床推論に基づいた実践力を育成する。		
時間外に必要な学修				
症状発現のメカニズムを理解するため、解剖生理学Ⅰの知識を復習すること。				
回	テーマ	内容		
1	総論	神経系の疾患とリハビリテーション		
2	脳血管障害総論	脳血管の構造と機能 脳血管障害の概要		
3	脳梗塞(1)	アテローム血栓性脳梗塞 心原性脳塞栓症		
4	脳梗塞(2)	ラクナ梗塞、BAD、TIA		
5	脳梗塞(3)	脳梗塞の画像診断		
6	脳梗塞(4)	脳梗塞の急性期治療		
7	脳梗塞(5)	閉塞部位に特徴的な脳梗塞(1)		
8	脳梗塞(6)	閉塞部位に特徴的な脳梗塞(2)		
9	脳内出血(1)	被殻出血、視床出血、皮質下出血の診断と治療		
10	脳内出血(2)	脳幹出血、小脳出血の診断と治療		
11	クモ膜下出血(1)	脳動脈瘤について		
12	クモ膜下出血(2)	クモ膜下出血の診断と治療		
13	高次脳機能障害	失語症、失行症、失認症		
14	脳静脈・髄液循環障害	水頭症、正常圧水頭症		
15	頭蓋内圧亢進	脳浮腫、脳ヘルニア		
16	頭部外傷	頭蓋骨骨折、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫、慢性硬膜下血腫、脳挫傷、びまん性軸索損傷		

17	脳腫瘍	神経膠腫、髄芽腫、悪性リンパ腫、血管芽腫、髄膜腫、神経鞘腫、下垂体腺腫、転移性脳腫瘍		
18	認知症（1）	認知症総論、Alzheimer型認知症		
19	認知症（2）	Lewy小体型認知症、前頭側頭型認知症、血管性認知症		
20	脊髄障害	脊髄損傷、脊髄梗塞、脊髄腫瘍、動静脈奇形、脊髄空洞症など		
21	末梢神経障害（1）	GBS、CIDP、Charcot-Marie-Tooth病		
22	末梢神経障害（2）	糖尿病性ニューロパチー、絞扼性ニューロパチー		
23	神経変性疾患（1）	神経変性疾患の総論、パーキンソン病と類縁疾患		
24	神経変性疾患（2）	脊髄小脳変性症と類縁疾患		
25	神経変性疾患（3）	筋萎縮性側索硬化症		
26	脱髄性疾患	多発性硬化症、視神経脊髄炎		
27	筋疾患（1）	筋強直性ジストロフィー、ミトコンドリア脳筋症、周期性四肢麻痺、重症筋無力症、Lambert-Eaton症候群		
28	感染性疾患	髄膜炎、脳膿瘍、脳炎、インフルエンザ脳症、Creutzfeldt-Jakob病		
29	代謝性疾患	Wernicke脳症など		
30	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
病気が見える Vol.7 脳・神経 (メディックメディア)		期末試験	100%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション内科学		理学療法学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中嶋 志保・宮内 貴志子
授業の概要				
リハビリテーションに関わりの深い内科系疾患について、疾患概念や病態を中心に基本的な知識を習得する。				
授業終了時の到達目標				
各臓器や器官の構造・機能と疾患の病態や症状との関連を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		宮内貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 中嶋 志保：理学療法士として5年以上の実務経験 臨床経験をいかして理学療法との接点を交えながら授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
次回の授業範囲について、テキストを読んで予習する。				
回	テーマ	内 容		
1	呼吸器疾患	呼吸器系の構造と機能 呼吸器疾患の臨床症状と病態生理と治療		
2	呼吸器疾患	呼吸器疾患の臨床症状と病態生理と治療		
3	呼吸器疾患	呼吸器疾患の臨床症状と病態生理と治療		
4	呼吸器疾患	呼吸器疾患の臨床症状と病態生理と治療		
5	腎臓・泌尿器疾患	腎臓・泌尿器の構造と機能 腎臓疾患の臨床症状と病態生理と治療		
6	腎臓・泌尿器疾患	腎臓疾患の臨床症状と病態生理と治療		
7	腎臓・泌尿器疾患	腎臓疾患の臨床症状と病態生理と治療		
8	腎臓・泌尿器疾患	腎臓疾患の臨床症状と病態生理と治療		
9	肝胆膵疾患	肝胆膵系の構造と機能 肝臓疾患の臨床症状と病態生理と治療		
10	肝胆膵疾患	肝臓疾患の臨床症状と病態生理と治療		
11	内分泌系疾患	内分泌系の構造と機能 内分泌疾患の臨床症状と病態生理		
12	内分泌疾患	内分泌疾患の臨床症状と病態生理		
13	消化器疾患	消化器系の構造と機能 消化器疾患の臨床症状と病態生理		
14	心肺蘇生法	緊急時対応 突然死につながる疾患		
15	心肺蘇生法	心肺蘇生実技		
16	循環器疾患 虚血性心疾患	虚血性心疾患の概念 狭心症①		

17	循環器疾患 虚血性心疾患	狭心症②		
18	循環器疾患 虚血性心疾患	心筋梗塞①		
19	循環器疾患 虚血性心疾患	心筋梗塞②		
20	循環器疾患 虚血性心疾患	心臓弁膜症		
21	循環器疾患 心筋疾患	急性心筋炎など		
22	循環器疾患	心不全①		
23	循環器疾患	心不全②		
24	循環器疾患 先天性疾患	Fal lot四徴候など		
25	循環器疾患 血管疾患	閉塞性動脈硬化症 深部静脈血栓症		
26	循環器疾患 血圧異常	本態性高血圧 ショックとは		
27	血液・造血器疾患	赤血球の異常、白血球の異常、止血機構の異常		
28	代謝性疾患	糖尿病①		
29	代謝性疾患	糖尿病②		
30	代謝性疾患	その他の代謝異常について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気がみえる Vol.2 循環器</li> <li>・病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌</li> <li>・病気がみえる Vol.4 呼吸器</li> <li>・病気がみえる Vol.5 血液</li> <li>・病気がみえる Vol.6 感染症</li> <li>・病気がみえる Vol.8 腎・泌尿器 (メディックメディア)</li> </ul>		期末試験 確認テスト	90% 10%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
精神医学		理学療法学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	植野 英一
授業の概要				
精神医学の基礎について学び、国家試験に準拠した内容を十分に理解し、理学療法業務に活かす。				
授業終了時の到達目標				
精神医学の基礎について、他者に説明できる。 全員が期末試験で6割以上正答できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		作業療法士として5年以上の臨床経験 作業療法士としての経験を生かして学生に分かりやすく伝える。		
時間外に必要な学修				
指定テキストを使用し、予習復習に努める。				
回	テーマ	内容		
1	授業概要の説明 精神医学とは	授業概要の説明 精神医学とは、精神障害にかかわる概念		
2	精神障害の成因と分類	精神障害の成因、精神障害の分類 理学療法との関連事項		
3	精神機能の障害と精神症状 1	精神症状の把握、意識とその障害、注意と見当識の障害、 知能とその障害、性格とその障害		
4	精神機能の障害と精神症状 2	記憶とその障害、感情とその障害、知覚とその障害 自我意識とその障害、理学療法との関連		
5	精神障害の診断と評価	診断・評価の方法、病歴の聴取、身体的検査法、 心理検査法、精神症状の評価 ほか		
6	脳器質性精神障害	脳器質性精神障害とは、認知症とその特徴、大脳皮質の 変性疾患、血管性認知症 ほか		
7	症状性精神障害	症状性精神障害とは、主な疾患、理学療法との関連事項		
8	精神作用物質による精神および行動 の障害	精神作用物質による障害の定義、アルコール関連精神 障害、薬物依存による精神障害 ほか		
9	てんかん	てんかんとは、てんかんの発作症状と精神症状、てんかん 関連発作疾患の分類、経過と予後 ほか		
10	統合失調症およびその関連障害	統合失調症とは、疫学、精神症状の特徴、病型、成因 ないし病態 ほか		
11	気分(感情)障害	気分(感情)障害とは、うつ病、躁うつ病 持続性気分障害、経過および予後 ほか		
12	神経症性障害	神経症性障害のとらえ方、不安および恐怖を中心とする 神経症性障害、強迫を中心とする神経症性障害、ストレス 関連障害 ほか		
13	生理的障害および身体的要因に関連 した障害	生理的レベルと身体的レベルの障害、摂食障害、非器質性 の睡眠障害、性関連障害 ほか		
14	成人のパーソナリティ・行動・性の 障害	パーソナリティの障害、行動(習慣および衝動)の障害、 性の障害、理学療法との関連		
15	総まとめ	総まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学(医学書院)		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
小児科学		理学療法学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮内 貴志子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供と大人の違い、小児疾患について理解を深める。</li> <li>・疾患を持った子供の成長に必要なこと。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児疾患についての理解を深めることができる。</li> <li>・小児疾患について興味を持てる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の経験 疾患を持った児や家族とのかかわりをイメージできるように展開する。		
時間外に必要な学修				
講義を聞いて復習してください。				
回	テーマ	内容		
1	小児科学概論	小児の成長と発達		
2	小児科学概論	小児の栄養、保健、新生児スクリーニング、予防接種		
3	小児疾患の治療	小児の検査、治療、薬物療法、水分補給、救急医療		
4	新生児、早期産児の病態	周産期の用語、出生時の評価、新生児仮死、アプガースコア、新生児黄疸、核黄疸		
5	新生児、早期産児の病態	低出生体重児、脳室周囲軟化症、頭蓋内出血		
6	先天異常と遺伝病	染色体(常染色体優性遺伝、常染色体劣性遺伝)		
7	先天異常と遺伝病	21トリソミー、18トリソミー ターナー症候群、心奇形、先天性代謝異常、フェニルケトン尿症		
8	神経・筋・骨疾患	脳の先天性奇形、脳性麻痺、てんかん、精神遅滞		
9	神経・筋・骨疾患	進行性筋ジストロフィー、重症筋無力症、発育性股関節脱臼、骨形成不全症		
10	循環器疾患	先天性心疾患、心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、チアノーゼ、ファローの四徴候		
11	呼吸器疾患	上気道炎、気管支炎、肺炎、酸素療法、人工換気療法		
12	感染症	麻疹、風疹、溶連菌感染症、百日咳、結核、無菌性髄膜炎、細菌性髄膜炎、インフルエンザ脳症		
13	消化器、内分泌疾患	腸重積、ロタウイルス感染症、ノロウイルス感染症、0-157感染症、肝炎、クレチン症、I型糖尿病		
14	その他の疾患	小児がん、白血病、アレルギー。川崎病		
15	その他の疾患	心身症、重症心身障害児		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 小児科学 (医学書院)		確認テスト 課題・レポート	80% 20%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
リハビリテーション医学概論		理学療法学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	中内 英樹
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学の本質を探究しながら医学全般について理解し、医療に従事する専門職としての資質を養う。</li> <li>・リハビリテーション医学の本質を探究しながら、リハビリテーション医療の状況把握と今後の発展性について学ぶ。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の生命が医学においていかに取り扱われるべきかを科学的な立場と生命の価値観の立場から説明できる。</li> <li>・リハビリテーション医療に従事する専門職として、リハビリテーションの理念と今後の発展性について説明できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った経験を盛り込みながら教授する。		
時間外に必要な学修				
授業で習った用語をインターネット等で検索し理解を深める。				
回	テーマ	内容		
1	医学とはなにか	・医学の定義 ・医学の構成内容 ・医とは		
2	医道とはなにか	・医学の起源と歴史 ・医道とは		
3	サイエンスとアート	・ヒポクラテスの癒しの技 ・サイエンスとアートの特徴		
4	医学の発達のすがた	・近世の医学 ・20世紀以降の医学 ・我が国の医学の発達		
5	人間の生命を考える	・ライフサイエンスと医学 ・医の倫理と生命倫理		
6	健康と病気、医学の体系	・病気の定義 ・病気の分類 ・急性疾患と慢性疾患 ・基礎医学の役割と臨床医学の関係 ・予防医学		
7	リハビリテーション医学の成り立ちと発展	・リハビリテーション医学の定義 ・リハビリテーションの歴史		
8	リハビリテーションの理念	・リハビリテーションの理念 ・トータルリハビリテーション ・医学的リハビリテーション		
9	リハビリテーションと障害学	・障害と疾病 ・疾病分類から障害分類へ		
10	国際障害分類と国際生活機能分類	・障害分類から生活機能分類へ ・国際生活機能分類 ・障害と環境		
11	日常生活活動(ADL)と生活・人生の質(QOL)	・ADLの定義と範囲 ・ADL評価の意義 ・QOLの概念と定義 ・QOL評価の意義 ・ADLからQOLへ		
12	障害者心理と障害受容	・身体障害者の心理的反応とステージ理論 ・障害の受容と障害への適応 ・心理機制と対応方法		
13	リハビリテーション医学の対象	・生物学的医学と生活リハビリテーション医学 ・リハビリテーション医学の構造		
14	リハビリテーション診療	・リハビリテーション医学関連職種 ・チーム医療 ・リハビリテーション診療の手順 ・EBMとNBM		
15	リハビリテーション医療 急性期、回復期、生活期	・急性期⇒回復期⇒生活期とその流れ ・診療機能分化とその流れ ・地域包括ケアシステム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布プリント		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法概論		理学療法学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	中内 英樹
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の歴史と発展の背景、現状を把握し、今後の発展性について学ぶ。</li> <li>・理学療法士としての使命と倫理を法的根拠を基に理解し、理学療法士に求められる資質を学ぶ。</li> </ul>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の概要、魅力、可能性について説明することができる。</li> <li>・理学療法士に求められる人間像をイメージする。</li> <li>・自分の目指す理学療法士像を説明できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 急性期から訪問リハまでの理学療法業務で培った経験を盛り込みながら教授する。		
時間外に必要な学修				
授業で提示された用語をインターネット等で検索し理解を深める。				
回	テーマ	内容		
1	理学療法とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の歴史</li> <li>・理学療法の定義</li> <li>・リハビリテーションと理学療法</li> </ul>		
2	理学療法士に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士及び作業療法士法</li> </ul>		
3	理学療法士の使命と倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士の役割と使命</li> <li>・守秘義務と個人情報保護</li> <li>・自己決定権の尊重</li> <li>・職業倫理ガイドライン</li> </ul>		
4	理学療法を構成する技術概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法の構成</li> <li>・運動療法と物理療法</li> <li>・補装具療法</li> <li>・理学療法と国際生活機能分類</li> </ul>		
5	医療保険制度からみた理学療法の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関と診療科目</li> <li>・診療報酬における理学療法</li> </ul>		
6	医療保険制度における理学療法と施設基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾患別リハビリテーション施設基準</li> </ul>		
7	社会福祉・介護保険制度からみた理学療法の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害者福祉法における理学療法</li> <li>・介護保険制度における理学療法</li> </ul>		
8	社会保障制度以外での活躍の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政分野</li> <li>・JICA</li> <li>・スポーツ分野</li> <li>・メーカー</li> <li>・健康増進分野</li> </ul>		
9	理学療法の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法処方</li> <li>・評価</li> <li>・目標設定</li> <li>・治療計画</li> <li>・記録報告</li> <li>・クリニカルパス</li> </ul>		
10	理学療法業務の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク管理の必要性</li> <li>・病院機能評価</li> <li>・患者満足度</li> <li>・理学療法診療ガイドライン</li> </ul>		
11	理学療法業務の質の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故の防止</li> <li>・インシデントとアクシデント</li> <li>・医療訴訟</li> <li>・感染予防</li> </ul>		
12	理学療法教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学教育の現状</li> <li>・理学療法教育の現状</li> <li>・卒前教育の到達目標</li> <li>・卒後教育システム</li> </ul>		
13	世界の理学療法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各国での理学療法</li> <li>・世界理学療法連盟</li> <li>・アジア理学療法連盟</li> <li>・(公社)日本理学療法士協会</li> </ul>		
14	これからの理学療法と可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢と理学療法</li> <li>・医療の進歩と理学療法</li> <li>・医療経済学から見た理学療法</li> </ul>		
15	理学療法士に求められる資質とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床推論</li> <li>・対人関係技術</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布プリント		期末試験	100%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法評価学 I		理学療法学科/1年	2020/後期	講義・実技
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中嶋 志保
授業の概要				
理学療法評価の意義、目的と理学療法領域に必要な基本的身体機能検査法について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報収集の方法を理解する。</li> <li>・バイタルサインの確認、形態測定、関節可動域測定、反射検査が的確な手順に沿って実施できる。</li> </ul>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		理学療法士として5年以上の実務経験 実践を通して身につく授業を展開する。		
時間外に必要な学修				
学習した検査法については、空き時間を利用して自主的に練習する。				
回	テーマ	内 容		
1	総論	理学療法における評価		
2	バイタルサイン	バイタルサインとは		
3	バイタルサインの実際①	意識状態		
4	バイタルサインの実際②	循環器系の指標と検査		
5	バイタルサインの実際③	呼吸器系の指標と検査		
6	バイタルサインの実際④	グループ学習		
7	形態測定	形態測定の意義		
8	形態測定の実際①	栄養状態と体格指数		
9	形態測定の実際②	四肢長、周径		
10	形態測定の実際③	グループ学習		
11	関節可動域	身体の基本肢位と運動方向		
12	関節可動域測定の実際①	肩甲帯・上肢		
13	関節可動域測定の実際②	肩甲帯・上肢		
14	関節可動域測定の実際③	グループ学習		
15	関節可動域測定の実際④	下肢・体幹		
16	関節可動域測定の実際⑤	下肢・体幹		

17	関節可動域測定の実際⑥	グループ学習		
18	知覚検査	知覚の分類		
19	知覚検査の実際①	表在感覚		
20	知覚検査の実際②	深部感覚、複合感覚		
21	知覚検査の実際③	グループ学習		
22	反射	反射の生理学的理解		
23	反射の実際①	深部腱反射		
24	反射の実際②	表在反射		
25	反射の実際③	病的反射		
26	反射の実際④	グループ学習		
27	見学実習にむけて①	医療面接と情報収集		
28	見学実習にむけて②	問診とその記録		
29	見学実習にむけて③	問診とその記録		
30	見学実習にむけて④	ロールプレイ		
	教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	理学療法評価学（金原出版）	期末試験	100%	



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
見学実習		理学療法学科/1年	2020/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
9時間	5回	1単位(45時間)	必須	宮内 貴志子・横川 光代
実習の概要				
学校が連携している臨床経験5年以上の理学療法士が勤務する医療施設または介護保険サービス施設において、臨床実習指導者の指導監督のもと実習を行う。				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健、医療、福祉の各分野の職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動がとれる。</li> <li>・臨床実習をとおして、自己の理学療法士としての自覚を高めることができる。</li> <li>・実践的コミュニケーション能力の習得方法を学ぶ。</li> <li>・模倣、実践、振り返りの中で習得方法を学ぶ。</li> </ul>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	宮内貴志子：理学療法士として5年以上の実務経験 横川 光代：理学療法士として5年以上の実務経験 臨床実習指導者経験を基に、的確に学生をフォローする。			
時間外に必要な学修				
実習の目的、各自の目標を明確にして臨み、毎日のまとめと予習を行うこと。				
実習内容				
1. 各教育領域における実習内容				
1) 情意領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士による実践的コミュニケーションを体感する。</li> <li>・患者様の命と人生を左右する臨床現場の中で、年代層や生活背景、人格や会話力など多種多様なケースに対し、専門家としての適切な振る舞いや対応、会話などを見学する。</li> <li>・早期より地域に目を向け、通所もしくは訪問リハビリテーションの見学などを通じて、地域包括ケアシステムにおける理学療法士や関連専門職の役割を理解する。</li> <li>・診療補助体験や、患者像・障害像の把握を目的とした情報収集や問診等の体験を通じて、専門家としてのあるべき姿に気づく。</li> </ul>				
2) 認知領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士が、「どんな障害を対象に、どのような方法で、何を目的に、どの様な工夫や注意をしながら」理学療法を実施しているかを自ら聞きながら見学する。</li> <li>・臨床実習指導者にヒントを与えてもらい、学内で学んだ知識を想起する。</li> </ul>				
3) 精神運動領域の実習内容				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価学で学んだ形態測定、関節可動域測定を臨床実習指導者の指示監督のもと経験する。</li> <li>・コミュニケーション論等で学んだ面接相談技術を用いて、臨床実習指導者の指示監督のもと医療面接を経験する。</li> </ul>				
2. 目標達成のため教育ツールを使用する				
1) 目標達成のため以下の①～③の教育ツールを使用する				
2) ①～③の教育ツールは、臨床実習指導者に毎日提出しチェックを受ける。				
①Daily Report      ②Clinical Record      ③自己学習ノート				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の手引き</li> <li>・配布資料</li> <li>・Daily Report</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の心得</li> <li>・自己学習ノート</li> <li>・Clinical Record</li> </ul>	100%	